



盆石 平安時代からつづく技と美 The Book of Bonseki: A Visual History of the Japanese Art of Bonseki

『盆石-平安時代からつづく技と美』制作実行委員会／編
 藝祥
 2023.9 94p 31cm
 793.9/+ネ39 2024.1.17 受入
 定価 4000 円+税

□□ 内容紹介

盆石とは、種々の盆の上に自然の風景を描くもので、日本古来の縮景芸術の一つ。黒い盆上に自然石や白砂を置き、石を山々に見立て、水鳥の羽や専用の道具を使って白砂で水の流れや波を描き、小さな盆上に自然の雄大な景色を表現している。

伝説では、盆石は飛鳥時代に始まったといわれ、その技法や作法が変わることなく脈々と受け継がれている。現在も続く流派は清原流、細川流、石州流の三派のみ。その三流派の家元が揃う展覧会「盆石-平安時代からつづく技と美」が、2022年に平成記念美術館ギャラリーにて開催された。展覧会では他に、正式には途絶えてしまった相阿弥流盆山石の盆石や、外務省婦人の会として盆石を学び、世界との外交の中で盆石を日本の美として紹介してきた「かすみ九曜会」の盆石も展示された。

本書は、展示会の作品と、盆石の歴史や文化、各流派の特徴をまとめたものである。

目次

盆石こそ日本人の心そのものである
 「盆石」憧憬-その煌めく小宇宙をめぐって
 盆石-流派とその作品
 清原流盆石
 細川流盆石
 石州流盆石
 相阿弥流盆山石
 かすみ九曜会
 解説 盆石の歴史
 おわりに
 助成金、寄付者、協力者

□□ 関連書籍

『盆石に魅せられて』
 横山 宗瑞／著
 ルネッサンスブックス 2007.1

図書館員のつぶやき

またひとつ、知らない世界がありました。
 黒いお盆に白砂だけでは信じられない風景が！
 石州流の家元は、前橋の龍海院で2022年に行われた、酒井忠清公三百四十年忌記念茶会で献盆されたそう。群馬とのプチつながり発見📍

ししゅうのふるさと桐生

組合創立 50 周年記念誌

桐生刺繍商工業協同組合 2023.10 113p 26cm
 K586/ネ 3X 2023.12.6 受入 頒価不明

目次

ご挨拶／祝辞／歴代理事長
 口絵
 桐生歴史調査報告書「桐生刺繍史」
 第1編 桐生刺繍史
 はじめに
 第1章 桐生の刺繍師を尋ねる 江戸時代から明治時代まで
 第2章 桐生の刺繍師を尋ねる 大正時代
 第3章 桐生刺繍業組合の創立
 第4章 戦時体制下の工業組合
 第5章 戦争直後の刺繍業界
 第6章 昭和30年代前後の刺繍業界
 第2編 桐生刺繍商工業組合の50年
 第1章 組合の創立
 第2章 組合50年の活動
 おわりに
 第3編 資料
 編集を終えて

□□ 関連書籍

『桐彩繡』 [桐生刺繍商工業協同組合／作製] 32cm
 【基礎編】 13p [2005.3] (刺繍された布地をバインダーに綴じた)
 特殊編 10p [2006.3] (見本集(禁帯出資料))

□□ 内容紹介

桐生刺繍商工業協同組合は昭和48年に設立、本書は創立50周年を記念して作成された。

桐生における刺繍の出荷高は、昭和40年代には輸出も含めると全国の9割を占めたという。

本書には「桐生刺繍史」が記載され、江戸から大正時代の桐生の刺繍師や、桐生の刺繍を特徴づける、大きな刺繍が可能な“横振ミシン”についても取り上げている。

第2編では、組合設立時の様子から近年の活動、黄綬褒章受章者を輩出したことなど、第3編では、創立時の組合員事業所名簿や、令和5年時点の組合員34社の概況、各事業所の歩みなどがまとめられている。

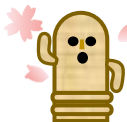
桐生刺繍 豆知識

◇ 「桐生横振刺繍(きりゅうよこぶりししゅう)」は群馬県ふるさと伝統工芸品として指定され、7名が伝統工芸士に認定(R5.3.31現在)。

◇ 2018(平成30)年、バンダイナムコエンターテインメントの「太鼓の達人」とコラボし、「桐生市オリジナルどんちゃんきせかえコンテスト」が行われた。伝統工芸士の大澤紀代美さんが、グランプリ作品「桐生八木節まつりで踊るどんちゃん」の刺繍を施したスカジャンが製作された。 [参考] WONDER!SCHOOL バンダイによる、遊びと学びのココロ育むファミリーエンタメサイト (<https://thewonder.it/>)

図書館員のつぶやき

桐生でつくられた日本らしい刺繍入りのジャンパーは、戦後、進駐軍兵士のお土産品として人気だったそうです。



本紙は、県立図書館が新たに収蔵した資料をご紹介します。県立図書館は、小説や実用書などの一般的な資料よりも、専門的な資料や通常の出版物ルートに乗らない郷土資料など、特定の利用者層や限定的なニーズを満たすような資料を収集する役割を担っています。“ニッチ” = “すき間” というタイトルにその意図を込めました。

【群馬県立図書館】 〒371-0017 前橋市日吉町一丁目9-1 電話：027-231-3008

